

スターバックス コーヒー 河内長野高向店（大阪府）

コーヒーの豆かすと木材チップからたい肥を作り森林との循環を目指す

【スターバックス コーヒー 河内長野高向店】

- ・大阪中心部から電車で30分、市内の約70%を森林が占める自然豊かな街、河内長野市に、2021年9月、市内初のスターバックス コーヒー 河内長野高向店が誕生しました。
- ・2019年11月に大阪・梅田にオープンしたLINKS UMEDA 2階店は「スターバックスの森」として地元木材をふんだんに使った店舗であり、この店づくりを機に河内長野の地域住民とのつながりが生まれ、今回の出店になりました。



大阪府森林組合とのコラボレーション

店内には「おおさか河内材」のスギやヒノキを原料とした家具が使用されています。

また、河内長野の森林が抱える、国産木材の需要と供給のバランスから植栽が進まないなどの課題を前に、継続的なプロジェクトとして「コーヒーの豆かすと木材チップからたい肥を作るプロジェクト」がスタートしました。



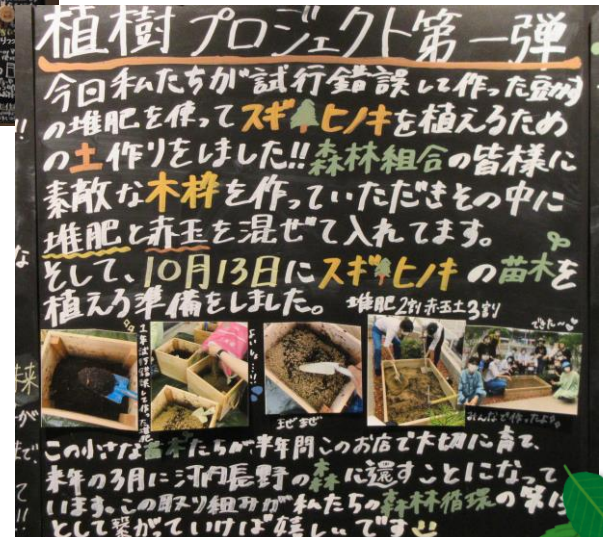
店内の黒板で「たい肥づくりプロジェクト」を紹介



おおさか河内材の木材を使用したテーブルとイス



店内にも「おおさか河内材」の木材がちらほら。オープン1周年記念で開催した、ヒノキのかんな削りを使用したマイタンプラーツクリのイベント



スターバックス コーヒー 河内長野高向店（大阪府）

①コーヒー豆かすからたい肥を作成

2021年9月のオープン時から、店内から出たコーヒー豆かすと河内長野市の森林を利用した木材から発生した木材チップを混ぜ合わせ、敷地内に設置したコンポストで発酵させ、たい肥を作る実証実験を実施。1か月に1度、たい肥づくりの際には来客者も参加可能にするなど、地域に密着した取組としている。



コーヒー豆かす



豆かすと木材チップを混ぜ合わせた木箱もおおさか河内材の木材を使用



敷地内に設置されたコンポスト



作成したたい肥を使用して、市内で拾ったどんぐりを植え、育苗実験を実施

②どんぐりの育苗実験



発酵して量が減った豆かすと木材チップ



③たい肥を使用した苗床

今後、苗床にスギとヒノキの苗を植えて、このたい肥が針葉樹の苗の育成を阻害しないか実証実験を行う予定。

【今後の目標と課題】

コーヒーの豆かすを使用したたい肥を安定的に製造し、市内の公園や小学校で使用することが目標。そのためには「廃棄物を有価として利用」することの法的な裏付けが必要になり、その問題解決に向けて河内長野市役所と連携している。